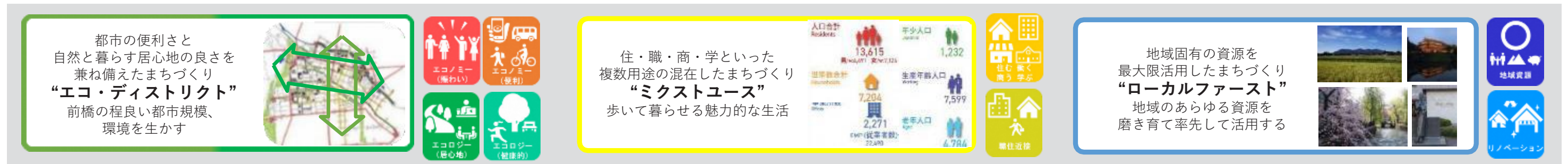


5. 長期プラン

まちづくりの方向性に基づく指針

まちづくりの方向性に基づき、どのような指針に沿って改善を行うべきかを整理しました。



ワークショップで多くいただいたアイデアや意見を整理し、以下に8つの重要な指針として示します。
3つのまちづくりの方向性に基づくこれらの指針を踏まえて、様々な取り組みが相互に関連しながら機能していくことが求められます。



まちづくり指針について

8つの指針に沿ってまちづくりを行うことで、前橋らしい将来のまちへと近づいていきます。そして、次にこれらに配慮した長期プランを示します。



7. 独自の文化を楽しむ



- ・地域の特産品
- ・アート
- ・前橋城跡
- ・祭り
- ・イベント

4. 広瀬川や利根川を楽しむ



- ・アクセス
- ・景観演出
- ・アメニティ



2. 水や緑の環境でリラックス



- ・親水空間の創出
- ・道路や公園の緑化
- ・建物の緑化



6. お店の賑わいを外へ



- ・オープンカフェ
- ・通りに開かれた建物



3. 徒歩や自転車でまちを回遊



- ・人中心の移動しやすい街路
- ・多様な用途の集積



1. まちなかで住み、働く



- ・多様な居住ニーズに対応した住宅供給
- ・都市機能の集積
- ・住環境向上

8. ICTや先進技術を活用する



- ・大容量free wi-fi
- ・自動運転公共交通
- ・AI活用の配車システム



※内閣府スーパーシティ構想より引用

5. 通りや広場の更なる活用



- ・イベント
- ・オープンカフェ
- ・新しい使い方



長期プランでの指針の対応

先述した8つの指針から長期プランを示すにあたり、まちの構成要素である街路、オープンスペース、土地利用の3つのテーマに分け、示します。

1. まちなかで住み、働く



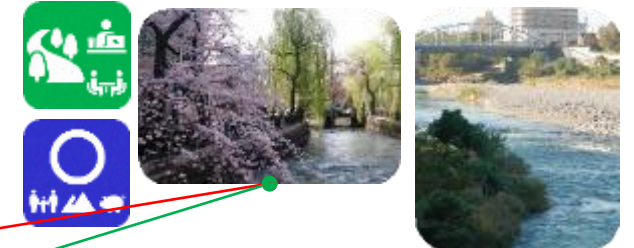
2. 水や緑の環境でリラックス



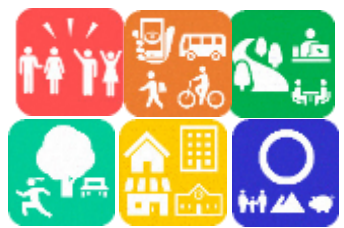
3. 徒歩や自転車でまちを回遊



4. 広瀬川や利根川を楽しむ



街路ネットワーク



オープンスペース



土地利用



5. 通りや広場の更なる活用



6. お店の賑わいを外へ



7. 独自の文化を楽しむ



8. ICTや先進技術を活用する

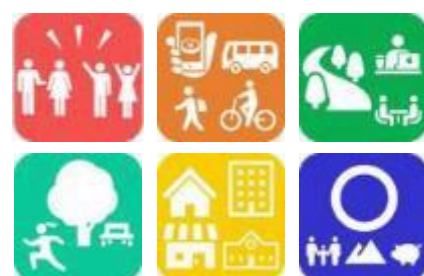


テーマ別長期プラン

1. 街路ネットワーク



街路ネットワークの長期プランは、歩行者・自転車がまちの中をより便利により安全に移動できることを目標とします。自動車利用をしてまちなかを移動するのではなく、平日は徒歩・自転車・公共交通利用を促し、週末にだけ自動車利用をするなど、移動手段の分散化を図ってより大勢が街路に出る事を目指します。また、まちなかへの通過交通を減らすように、中心市街地の外周の街路ネットワークを見直すことも重要です。



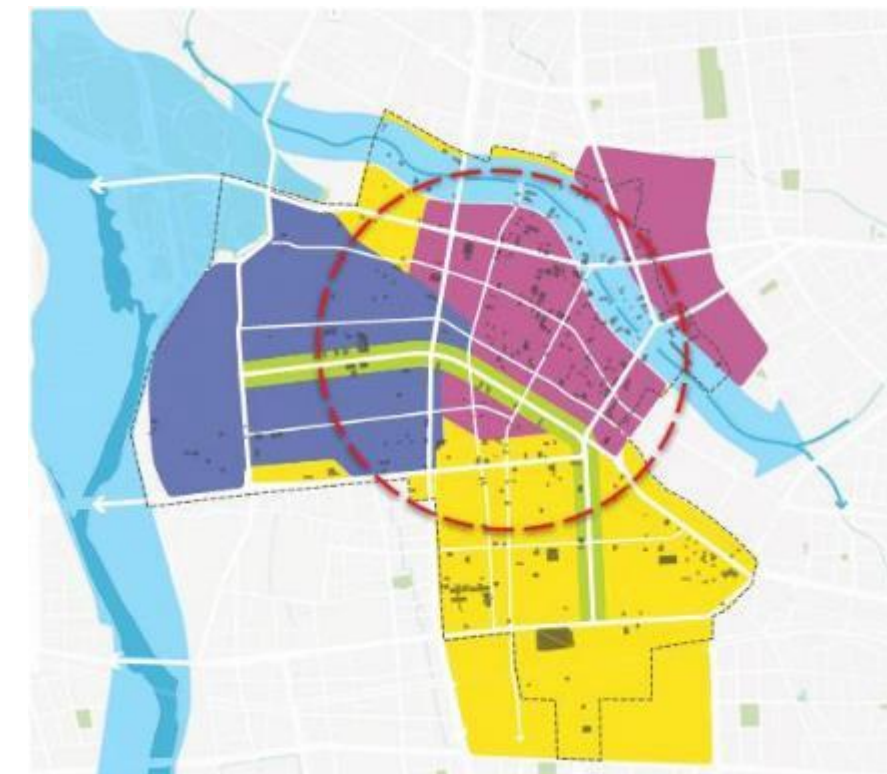
2. オープンスペース



オープンスペースの長期プランは、水と緑に溢れた中心市街地や城跡をはじめとする地域資源を生かした中心市街地、といった前橋市のプライド、誇りを今以上に可視化することを目標とします。



3. 土地利用



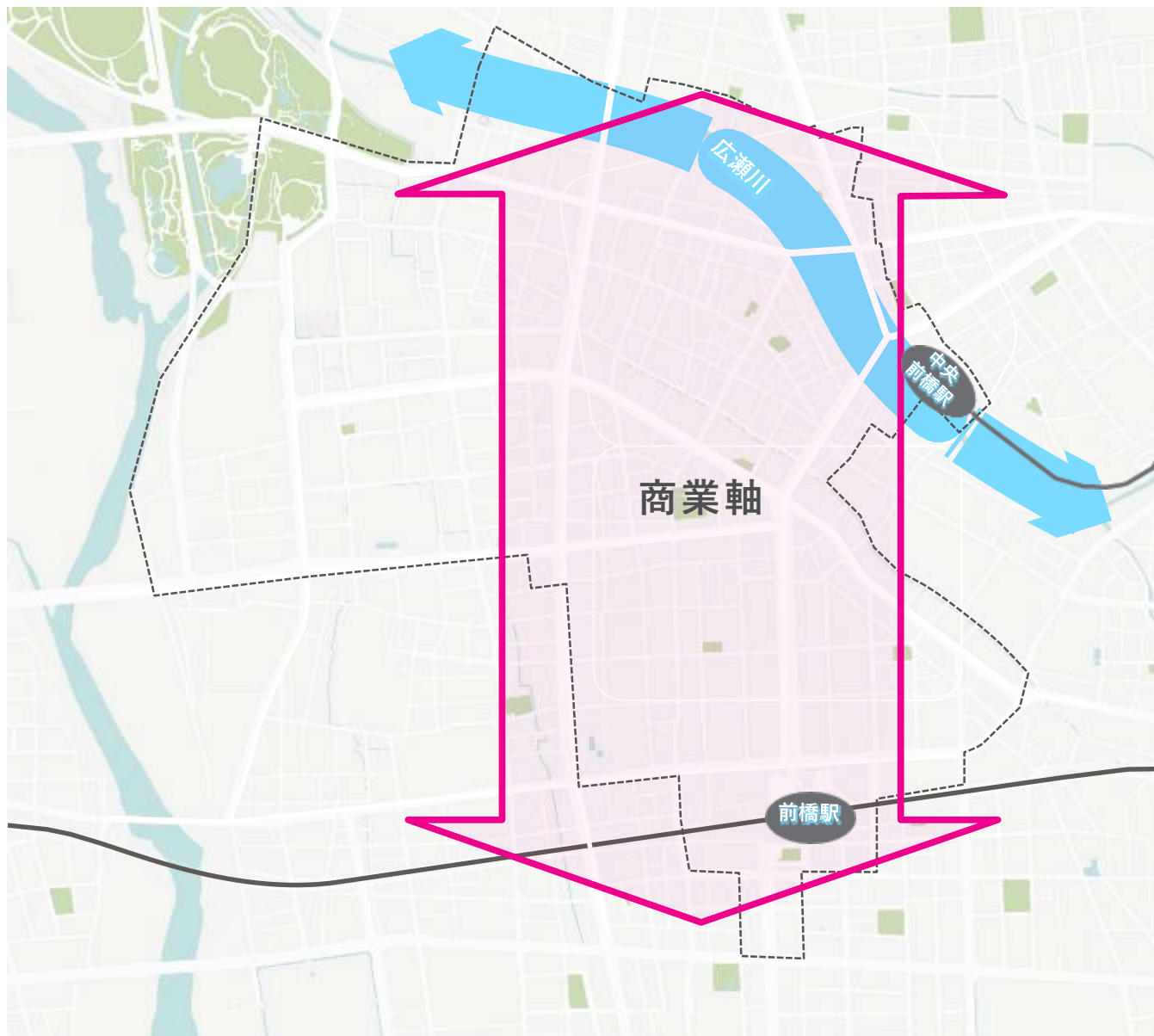
土地利用の長期プランは、ミクストユースを促進し、様々な用途を混在させることで昼夜間人口のバランスを取り、中心市街地内に昼夜問わず人が行き交う仕組みをつくることを目標とします。



2つの視点からなる軸

中心市街地の街路ネットワーク、オープンスペース、土地利用の長期プランを提示するにあたり、ワークショップでも議論した2つの大切な視点を以下に示します。活性化という目的はどちらも同じですが、限られた財源を効果的に投資していくためには、段階的な改善をどの視点に従って行うか検討することが必要です。

視点1: 南北に広がる商業軸(前橋駅～けやき並木通り～繁華街～広瀬川)



この視点は、前橋駅周辺から繁華街、広瀬川をつなぐ南北方向を示しており、市内の利用者が多い前橋駅から、ビジネスホテルや業務ビルが多く立地するけやき並木通りを経て、南北にアーケードが続く繁華街へつながる”商業的”な特長を生かすべき軸。

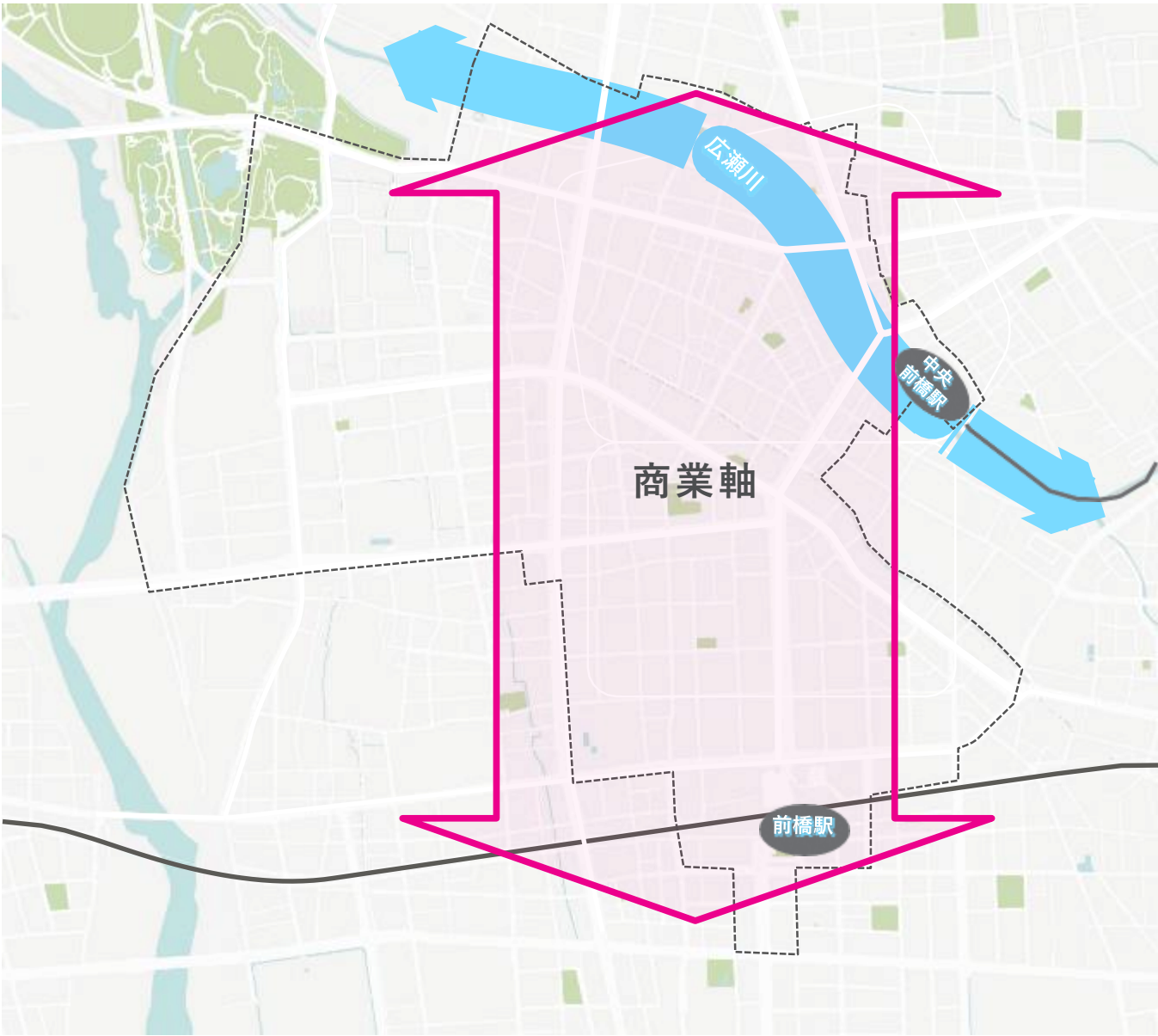
視点2: 東西に広がる文化・健康軸(利根川～前橋公園～繁華街～中央前橋駅)



この視点は、利根川や前橋公園などがあるエリアと繁華街をつなぐ東西方向を示しており、利根川や前橋公園、るなぱあくに共通する”健康的”特長や、行政施設、美術館や城跡といった”文化的”な特長を生かすべき軸。広瀬川や馬場川はこの軸に沿って流れる。

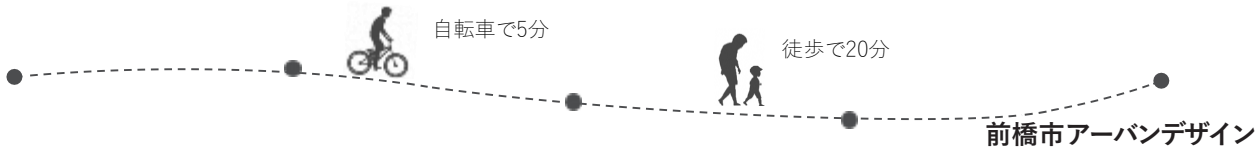
視点1：南北に広がる商業軸

この“南北に広がる商業軸”は、前橋駅から広瀬川までの動線を強化します。
主に前橋駅を利用し移動する市外からの来訪者や歩行者、自転車利用者に対して、利便性を高めることにつながります。



- 主な既存資源
前橋駅、駅前けやき並木通り、前橋八幡宮、繁華街、広瀬川など
- ワークショップでの意見
 - ・市外からの駅利用者が最初に目にするのが駅前けやき並木通りである
 - ・駅と繁華街が分断されている印象なので、改善しつなげることが必要
 - ・駅前をもっとまちの核にするべき
- ターゲット
前橋駅の利用者（市外からの来訪者、学生）、ホテルの宿泊客、近隣の歩行者、自転車利用者など
- 改善例
 - ・前橋駅前広場の利活用や商業施設の整備による賑わいの活性化
 - ・駅前けやき並木通りへの飲食・物販店等の出店
 - ・通りやオープンスペースの利活用によるイベントの日常化
 - ・シングルユースである既存業務ビルのミクストユース化
 - ・国道50号の各交差点における南北方向の歩行者アクセス強化
 - ・広瀬川の再整備による賑わいの拠点づくり

○改善イメージ

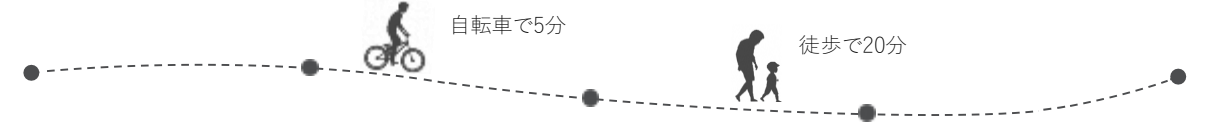


視点2：東西に広がる文化・健康軸

この東西に広がる文化・健康軸は、利根川から中央前橋駅までの動線を強化します。
主に地元の歩行者や自転車利用者、前橋公園やるなぱあくを利用する方に対して、便利にまちを回遊しさらなる利用を促すことにつながります。



- 主な既存資源
利根川、前橋公園、臨江閣、るなぱあく、前橋城跡、行政施設、広瀬川、馬場川、繁華街、前橋文学館、アーツ前橋、前橋テルサ、中央前橋駅など
- ワークショップでの意見
・前橋固有の自然資源を活用した考え方が魅力的であり、豊かな生活が想像できる
・このエリアの中で車を使わずに生活ができると魅力的だ
・子供と前橋公園に遊びに行っても昼食が出来る場所が少ないため、繁華街との接続は必要
- ターゲット
前橋公園周辺の利用者、子供連れの家族、地元住民、近隣の歩行者、自転車利用者など
- 改善例
・利根川や前橋公園周辺の景観を生かしたイベントや飲食店の出店
・前橋公園周辺や県庁前けやき並木通り周辺のミクストユース化
・広瀬川や馬場川沿いの癒し・居心地の向上、ウォークブル・バイカブル化
・リノベーションによる古くから残る建物の新たな利活用
・国道17号各交差点における東西方向の歩行者アクセス強化
- 改善イメージ



長期プラン「街路ネットワークについて」:複数交通手段への対応

歩行者・自転車がより便利に、簡単に往来・移動できるようにすることで、利用者の増加を図る



複数交通手段対応の通りのイメージ

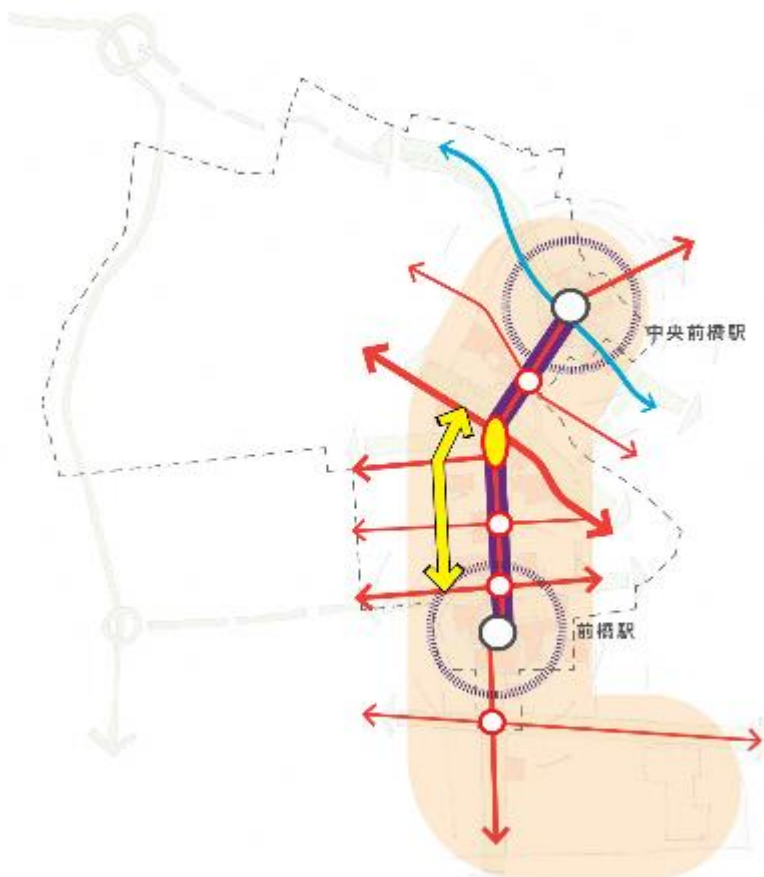
凡例

1. 中心市街地への玄関口
2. 複数交通手段対応の主要街路
3. 2次的街路
4. グリーン・ループ
5. 交通網に絡めた賑わい拠点

2つの視点の比較(街路ネットワーク)

街路ネットワークについて、2つの視点においてこういった改善が考えられるか以下に例を示します。

視点1: 南北に広がる商業軸(前橋駅～けやき並木通り～繁華街～広瀬川)



- ・現在検討を進めている本町二丁目交差点の改善による、歩行者と自転車利用者の利便性向上
- ・前橋駅から中央前橋駅までの間の街路における象徴的な「けやき」や「いちょう」などの保全と、様々な交通手段に対応できる街路としての高質化
- ・駅前けやき並木通りに対する二次的街路を歩行者、自転車利用者のために改善する
- ・前橋駅と中央前橋駅の両方に交通の拠点をつくり、両駅間を短い間隔で運行する路線バスでつなぐ
- ・交差点の改善による歩行者、自転車、自動車の安全性の確保

視点2: 東西に広がる文化・健康軸(利根川～前橋公園～繁華街～中央前橋駅)

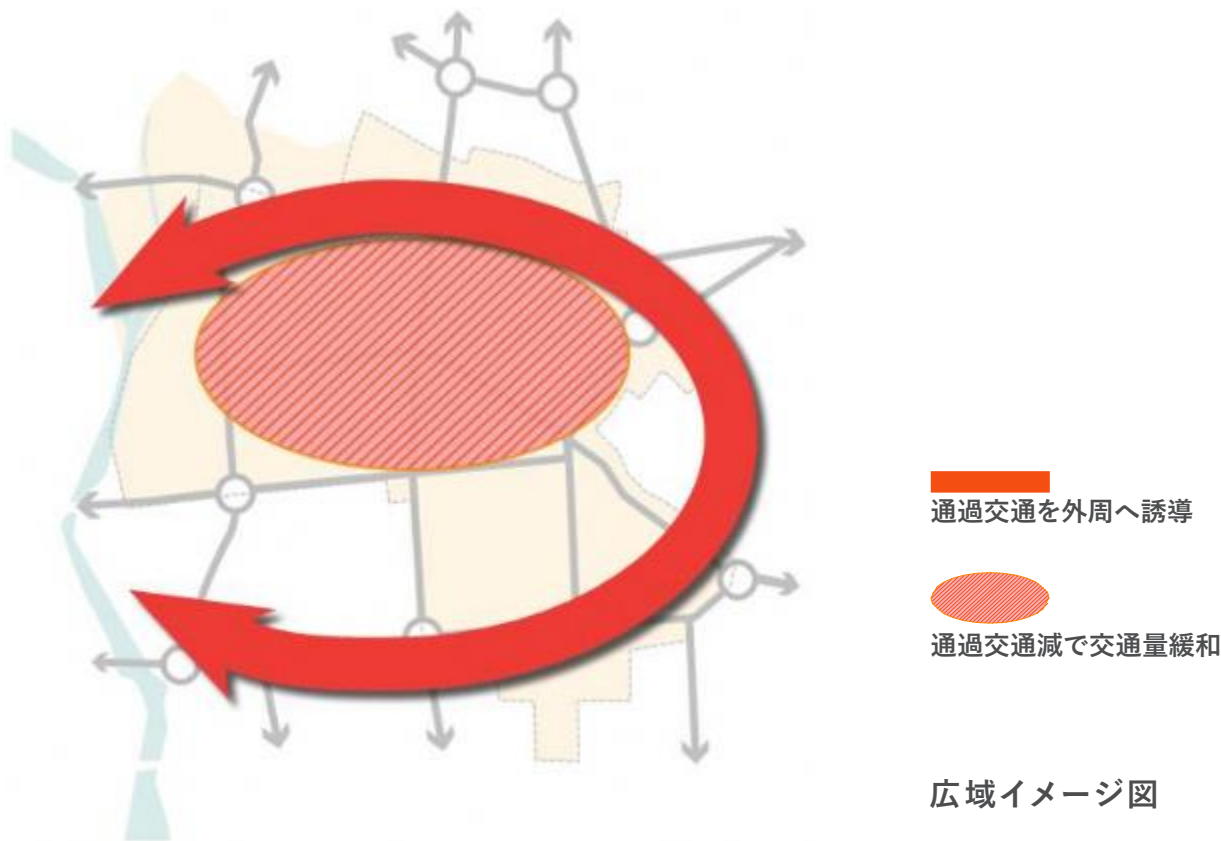


- ・前橋公園周辺と繁華街をつなぐ街路の強化
- ・県庁前けやき並木～国道50号けやき並木～駅前けやき並木を短い間隔で運行する路線バスでつなぎ、行政地区へのアクセス向上
- ・中心市街地を流れる川や水路に沿って、歩きやすく、自転車も通行しやすい工夫をし、沿道店舗との連携をする
- ・自動車対面通行の街路を一方通行に変更し、歩行者や自転車利用者が安全に通行できるよう街路の改善をすることで、近隣エリアをつなぐ快適な動線の整備による人の往来促進
- ・利根川と広瀬川に沿ってグリーンループを整備し、住居・職場環境を向上

街路ネットワークの改善イメージ



改善イメージ1：まちなかの通過交通を外周へ誘導し、交通量を減らす



中心市街地への玄関口である主要交差点に手を加え（信号の周期に手を加える等）、中心市街地への通過交通が外周道路を使用して、中心市街地を迂回するように誘導する。これにより、中心市街地内では交通量が減り、より歩行者と自転車に優しい街路をつくることを目指す。



改善イメージ2：街路空間を積極的に活用して複数交通手段対応の主要街路とする



交通量の減った主要街路は、歩道上のオープンカフェや、車道を定期的に歩行者天国にしてイベントを開催するなど新しい使い方を進めて、自動車メインの使い方から複数交通手段対応として人の往来を促進する



車道を使って開催されるイベントのイメージ



車道と分離された安全な歩行者空間が積極的に使われているイメージ

街路ネットワークの改善イメージ



改善イメージ3：2次的街路（裏通り）を改善し、人の往来を促進する



広域イメージ図

歩行者・自転車が安全に快適に通行できるよう、幅員に応じて街路を改善する。例えば、自動車が対面通行する街路を一方通行に変更して歩行者空間を確保するなど。



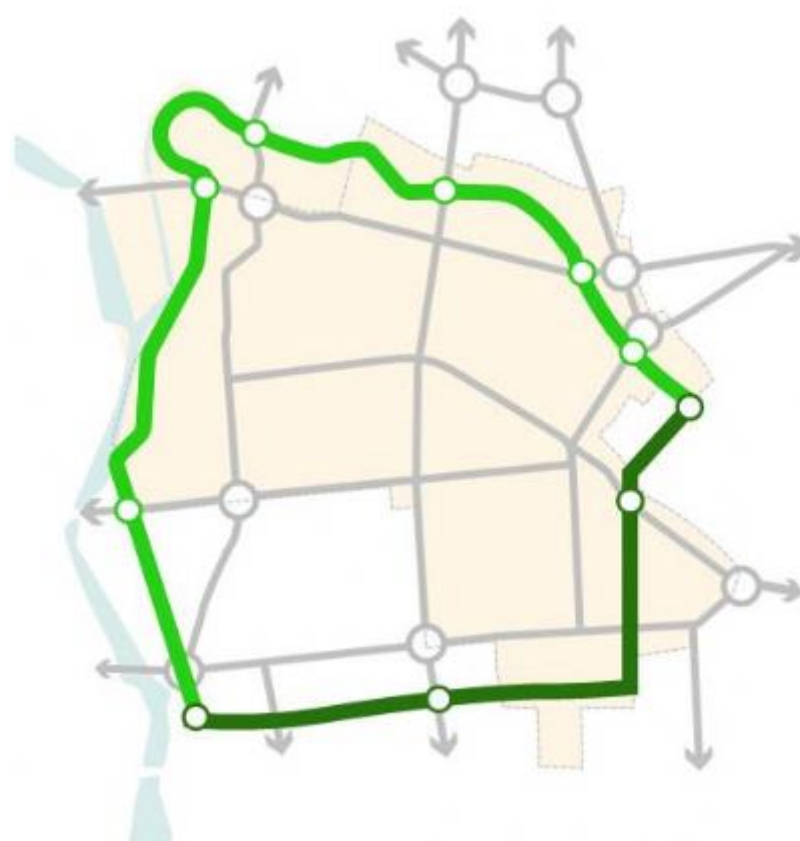
安全で賑わいのある歩道のイメージ



安全で賑わいのある歩道のイメージ



改善イメージ4：グリーン・ループをつくり回遊性を高める



広域イメージ図

歩行者・自転車が、安全に便利に利用できる多角的利用可能な動線として、中心市街地を取り囲むグリーン・ループを整備する。グリーン・ループ沿いに新規開発投資も期待できる。



広瀬川、および利根川沿いのグリーン・ループのイメージ

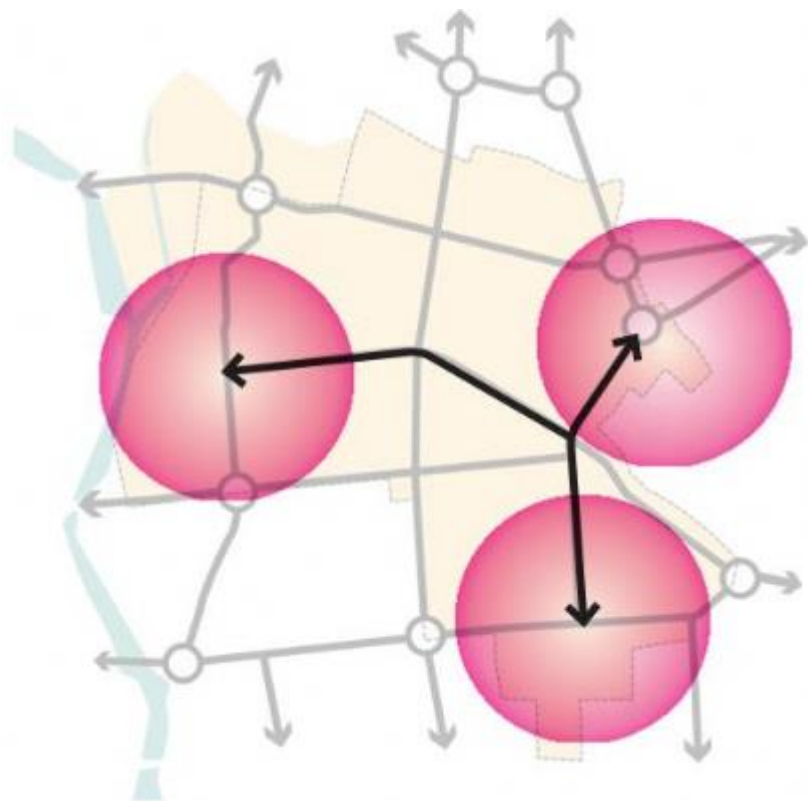


両毛線沿い、および前橋駅から中央前橋駅にかけてのグリーン・ループのイメージ

街路ネットワークの改善イメージ



改善イメージ5：交通網に絡めた結節点としての拠点をつくる



広域イメージ図

県庁、前橋駅、中央前橋駅を頻繁（10～15分間隔）に行き来する自動運転循環バスを導入し、移動の利便性を高める。県庁周辺は、自転車移動やバス移動の結節点として拠点化することを検討する。



賑わい拠点に併設され、市民の交流の場となる広場のイメージ



拠点間を頻繁に運行する、自動運転循環バスのイメージ



長期プラン「オープンスペースについて」：水と緑のネットワーク化

オープンスペース化した低未利用地や前橋公園、利根川、広瀬川、馬場川をつなぎ、水と緑のネットワークをつくることで前橋らしいまちの魅力を積極的に高める。



居心地の良い緑の広場、水辺のイメージ

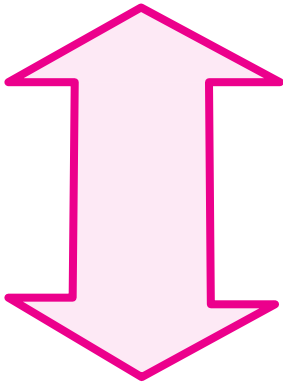
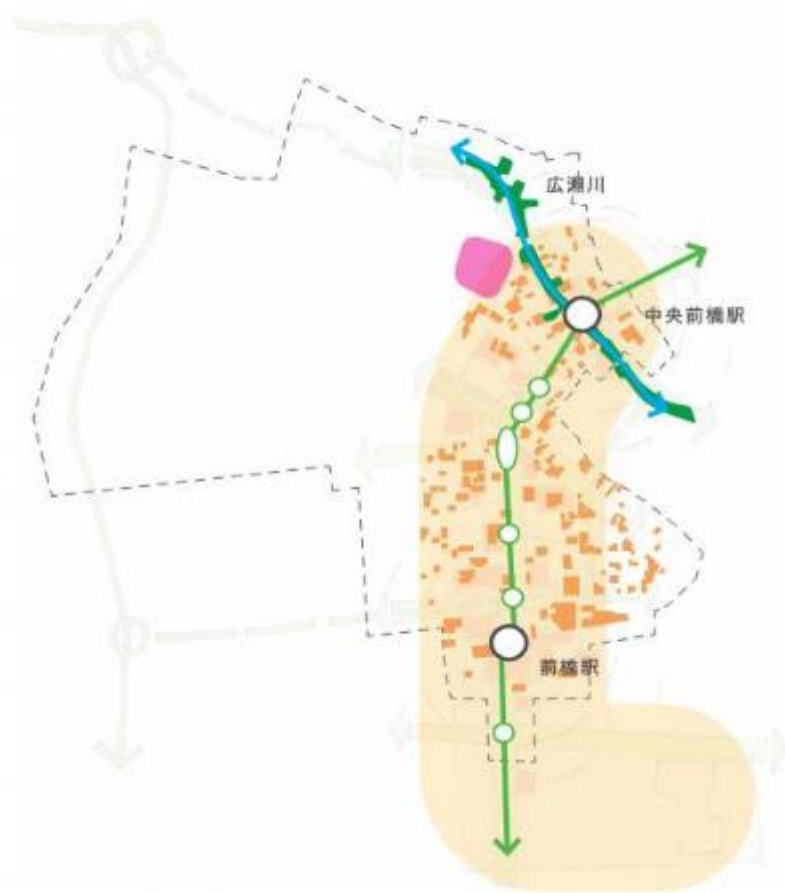
凡例

1.  空き地、駐車場、境内、公開空地などの低未利用地を高質化してオープンスペースとして利活用
2.  緑の広場をつくるエリア
3.  既存のオープンスペースを高質化
4.  河川、水路
5.  かつて前橋城があったエリア
6.  緑のネットワーク
①複数交通手段対応の街路
 ②2次的な街路

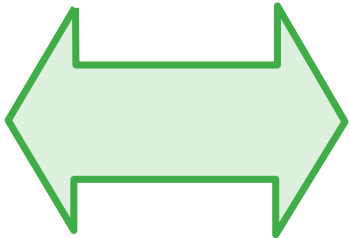
2つの視点の比較（オープンスペース）

オープンスペースについて、2つの視点においてこういった改善が考えられるか以下に例を示します。

視点1：南北に広がる商業軸（前橋駅～けやき並木通り～繁華街～広瀬川）



視点2：東西に広がる文化・健康軸（利根川～前橋公園～繁華街～中央前橋駅）



- ・広瀬川河畔沿いの低未利用地をオープンスペースとして高質化し、周囲への商業店舗やオフィス、住居などとの連携や出店を誘う
- ・エリア内の低未利用地をオープンスペース化し、緑のネットワークと連携した人の流れをつくることで、キッチンカーや屋台の出店を促す
- ・マルシェなどの市民の憩いの交流拠点として、繁華街周辺に緑の広場をつくる

- ・都市型農園などの市民の憩いの交流拠点として、繁華街周辺に緑の広場をつくる
- ・エリア内のオープンスペースをつなぐ緑の街路ネットワークを整備して、住居やオフィスなどの環境向上に努める
- ・エリア内の複数の低未利用地を緑あるオープンスペースとして高質化し連続させることで、居住環境を向上し、定住人口促進に寄与する
- ・行政地区からまちへ広がる水路の存在感を高めるため、水のネットワークを整備し、親水空間でエリア間をつなぐ

オープンスペースの改善イメージ



改善イメージ1：低未利用地を、オープンスペースとして利活用



空き地、平面駐車
境内、公開空地

広域イメージ図

空き地、平面駐車場といった民間の低未利用地を資源として捉えて転換・再生し、緑化した街路でつなげることでオープンスペースのネットワークを強化する。これによって市民により身近で快適かつ文化的に利活用できる資産となり、中心市街地の魅力が高まる。



ストックの利活用のイメージ
(駐車場などの街路沿いの縁にキッチンカーを置く例)



ストックの利活用のイメージ
(屋台村として活用し、賑わいを作る例)



改善イメージ2：緑の広場をつくり、交流やイベント、憩いの拠点とする



まちなかに緑の広場を作り、昼夜にコミュニティが交流したりイベントをしたりする場所とすることで、まちの中心性の強化・賑わいの牽引力づくりに資する。あわせて、その緑の広場周辺に新規投資を誘引し、賑わい機能を強化する。



緑の広場のイメージ



緑の広場につながる街路のイメージ

オープンスペースの改善イメージ



改善イメージ3：既存のオープンスペースを積極的に活用するための改善を図る

改善イメージ4：水に親しむオープンスペースを整備し、水のイメージを高める



既存のオープンスペースの活用を促進するため、民間活力の導入を踏まえた高質化を図る。緑の多い居心地の良い環境やデジタル化に対応した環境などで日常的な利用を促すほか、季節イベントも開催しやすいような工夫を加える。また、地域の特産品を扱うファーマーズマーケットなどのイベントをより頻繁に開催する仕組みをつくる。



広場の活用イメージ



水辺の緑の広場のイメージ

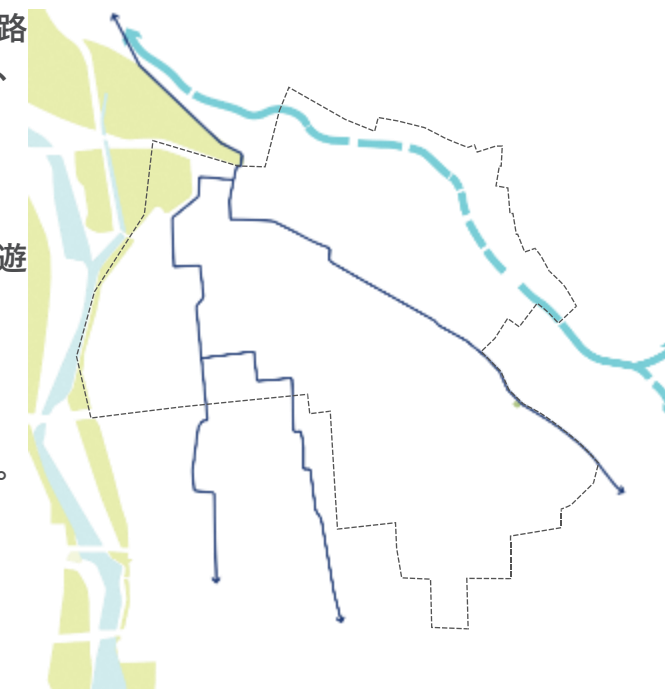
広場・街路・民地などで、中心市街地内を流れる水路の存在感を高めるため、かつての水路を復元したり、以下の方法によって親水空間を創出する。

親水用の水として使う

- ・遊び用の水：子供が触って遊べる清浄な水。
- ・展示用の水：触るには清浄だが、その中に入って遊ぶには不十分。

修景用の水として使う

- ・池の水：植物がよく育つ水。
- ・雨水浸透植栽：植物に覆われているが清浄な雨水。



親水用：
遊び用の水のイメージ



親水用：
展示用の水のイメージ



修景用：
池の水のイメージ



修景用：
雨水浸透植栽のイメージ

オープンスペースの改善イメージ

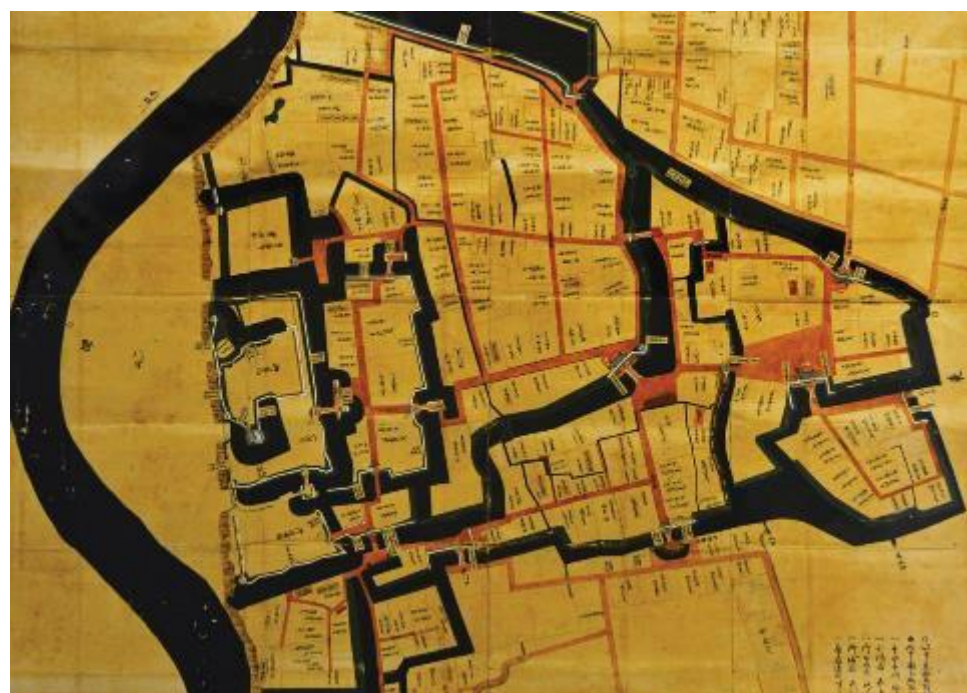


改善イメージ5： 城跡や歴史文化のイメージをまちづくりに反映する

まちと文化を形成した歴史の要素を可視化する。前橋のまちと深く結びつく城跡や明治・大正時代の製糸業で栄えたイメージの復元や、歴史資源の利活用などをして、市民や来訪者の「歴史」に対する関心を高め、まちの魅力向上を図る。



江戸時代堀と城門イメージ



江戸時代地図（龍海院所蔵）



製糸業の躍進を牽引した交水社



生糸や繭、絹織物などを保管したレンガ倉庫



改善イメージ6： オープンスペースをつなぐ緑のネットワークを整備し、緑の前橋のイメージを高める



- 既に街路樹が整備されている街路
- 緑化が期待される街路

広域イメージ図

改善1～5によるオープンスペースをつなぐ緑のネットワークとしてまちなかの各通り（表通りから裏通りまで）を緑化し、“緑の前橋”のイメージを高める。それによって、人が心地良く移動出来るように改善され、往来が促進される。



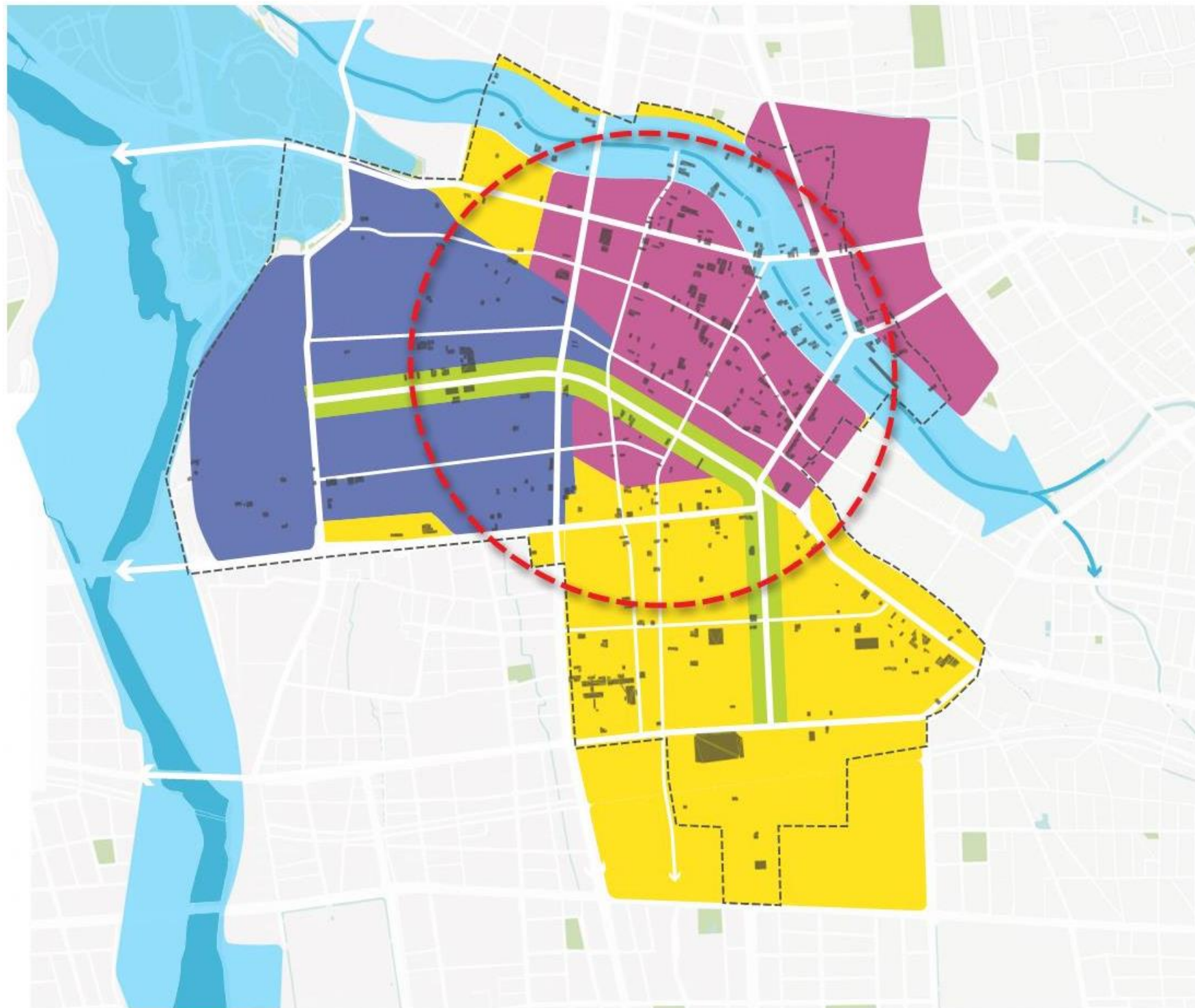
緑多い主要街路（表通り）のイメージ



緑多い2次的な街路（裏通り）のイメージ

長期プラン「土地利用について」:ミクストユース化して昼夜間人口のバランスをとる

まちの中の用途の複合化を促進し、住人口と就業人口の増加による昼夜間人口のバランスをとり、昼夜問わずまちに人が行き交う仕組みをつくる。



様々な人が使用する居心地良い屋外空間のイメージ

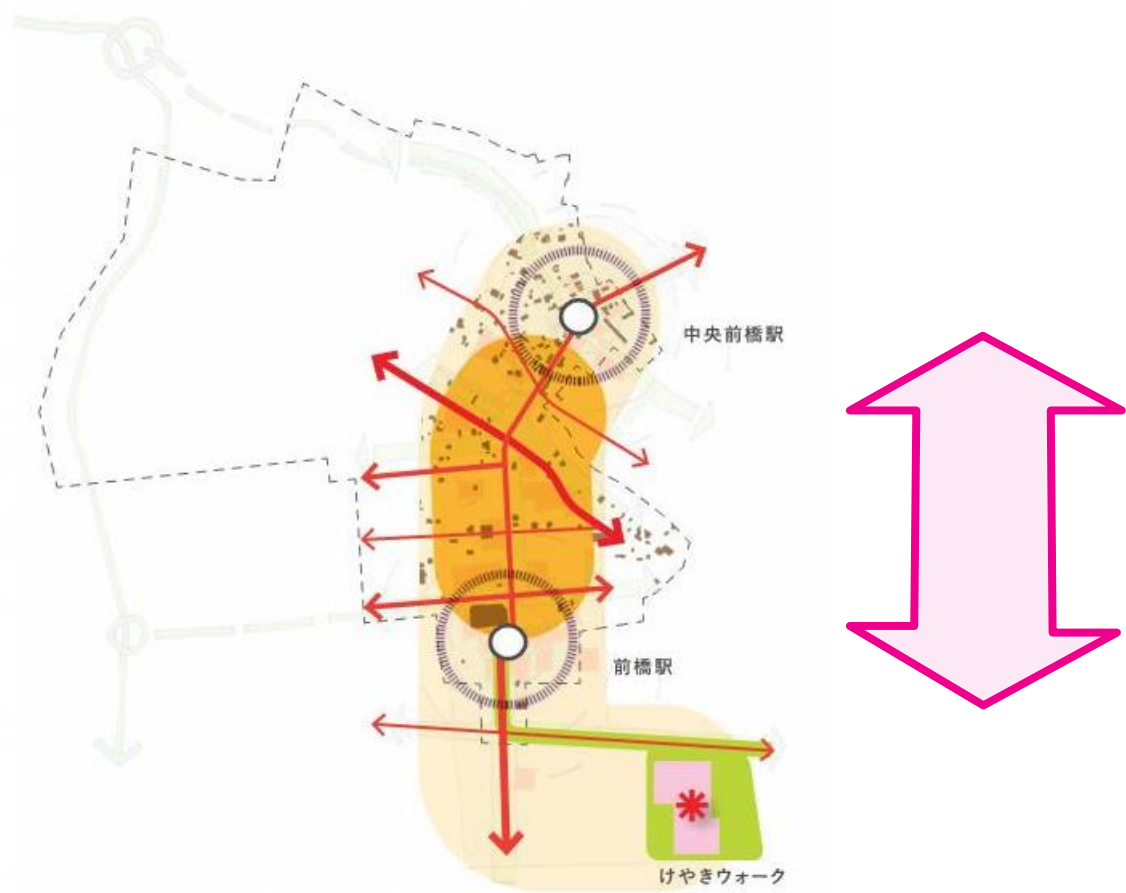
凡例

1. 各地区の特長を認識・強化しつつ、それぞれミクストユース地区として更に魅力を高める
 - 繁華街
 - 河川沿い
 - 行政地区
 - けやき並木通り
 - 居住地区
2. 改修が期待できる既存建物
3. 昼夜間人口のバランスをとり、昼夜を通して賑わい創出を図る重点区域

2つの視点の比較(土地利用)

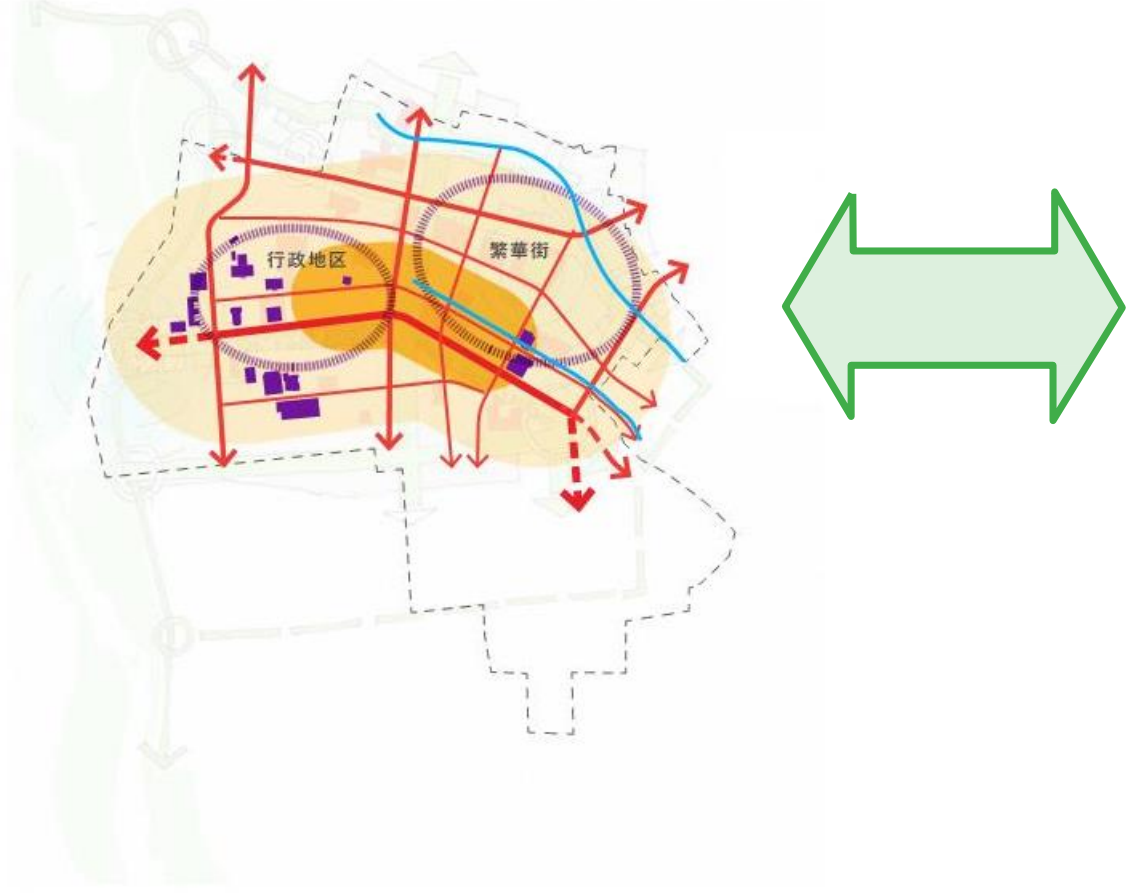
土地利用について、2つの視点においてこういった改善が考えられるか以下に例を示します。

視点1: 南北に広がる商業軸(前橋駅～けやき並木通り～繁華街～広瀬川)



- 南北に広がる商業軸に沿って、多様な住まい方に対応した住宅の整備を促進する
- 前橋駅と中央前橋駅周辺で1階が店舗、2階以上がオフィスや住宅のミクストユースプロジェクトを推進し、周辺の賑わいや人口の増加を促す
- 沿道の1階にオープンカフェなどの商業店舗を入れて、街路に対して賑わいが漏れ出るように工夫する
- 空き家をリノベーションし、スタートアップ事業の立ち上げや新たな使い方として利活用を促す
- けやきウォーク前橋はまちなかの賑わい動線から少し離れているため、前橋駅との動線に店舗の出店を促し、若者が楽しみ歩けるようにする

視点2: 東西に広がる文化・健康軸(利根川～前橋公園～繁華街～中央前橋駅)

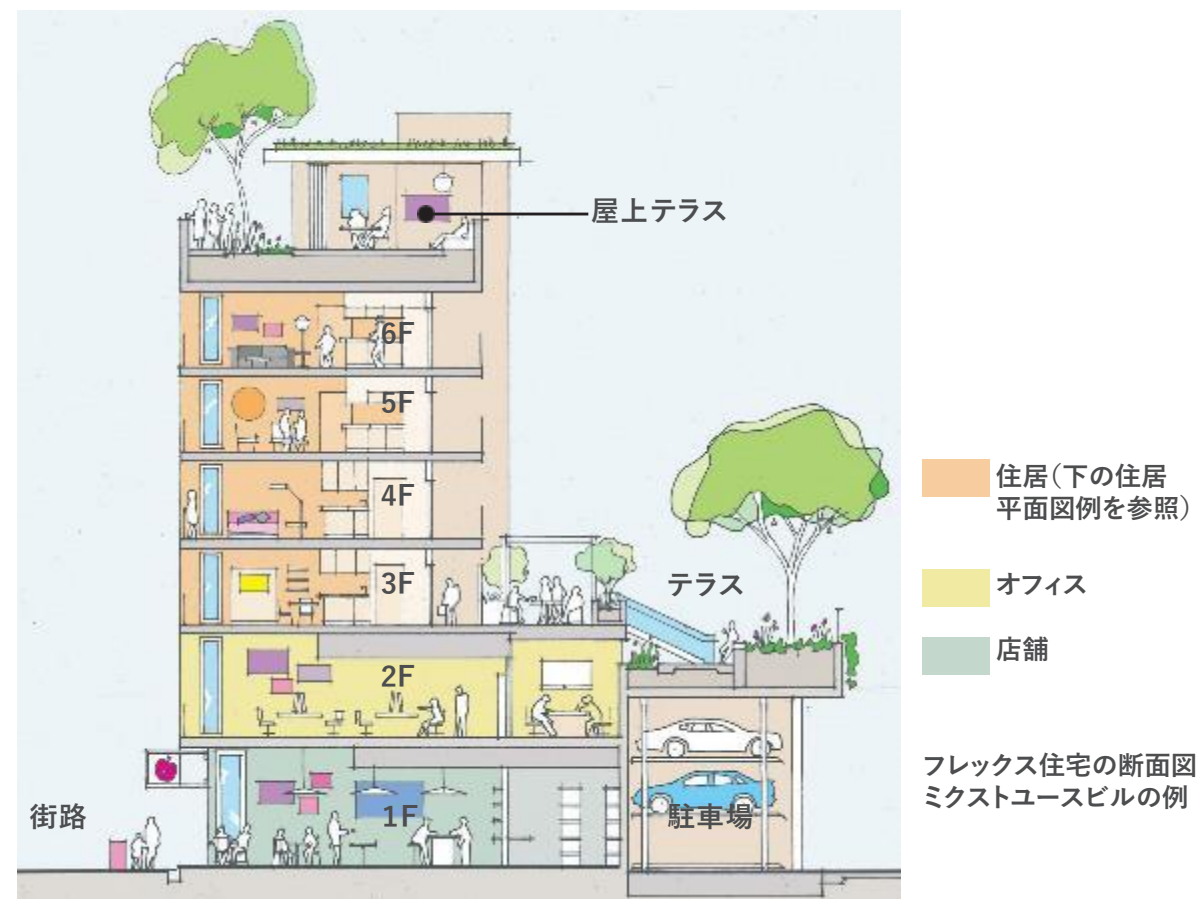


- 東西に広がる文化・健康軸に沿って、多様な住まい方に対応した住宅の整備を促進する
- 行政地区と繁華街で、1階が店舗、2階以上がオフィスや住宅のミクストユースプロジェクトを推進し、周辺の人口の増加を促す
- 沿道の建物は植樹による緑化をし、1階にはローカルコンテンツを生かした店舗を入れるなど文化・健康軸らしさを演出をする
- 地域資源である広瀬川や馬場川沿いは立地環境をうまく使い、リノベーションなどによる周囲との一体的な賑わい創出を促す
- 行政関連施設の集約化を図ることで、就業者人口の増加や都市機能の強化を図る

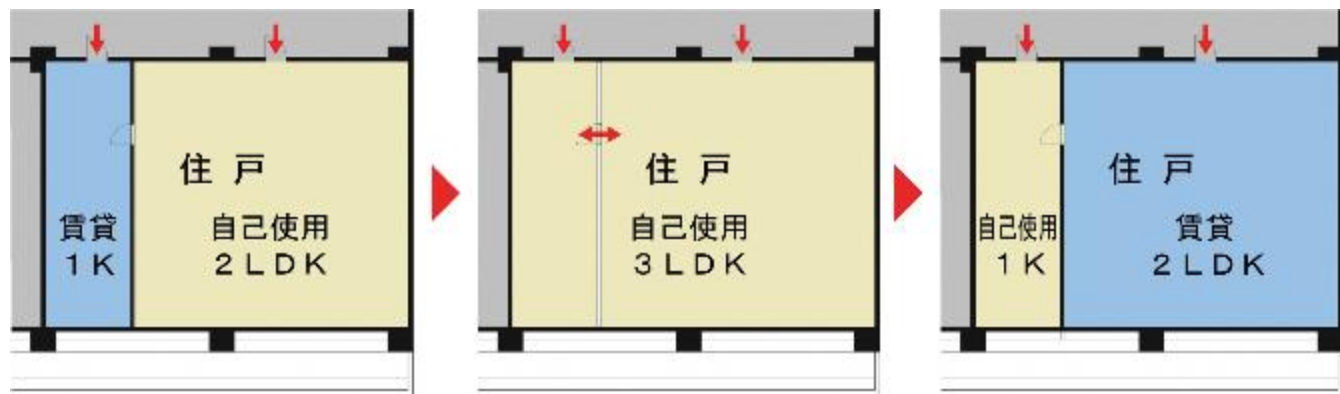
土地利用の改善イメージ



改善イメージ1: 多様な居住ニーズに対応した住宅を増やし、人口密度を上げる



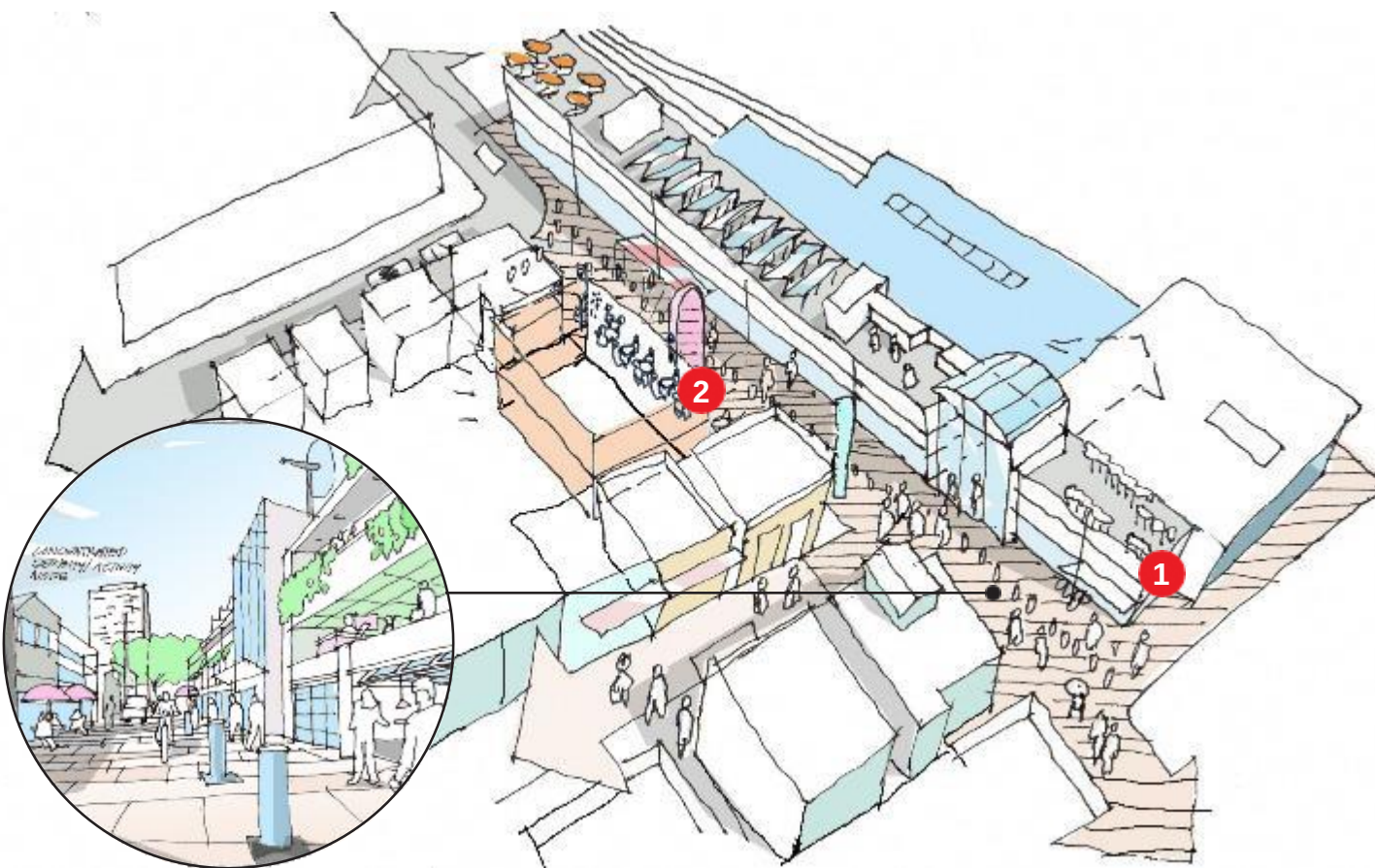
人口密度を増やすとともに、将来にわたってコミュニティが機能してゆくために、変化する需要に応じて簡単に改修・再利用が可能なフレックスビルとすることや、ライフステージに応じた住戸の運用、偏った居住者構成とならないような住宅規模の分散など、幅広い受け皿を供給する。



ライフステージに応じて自己で使用する部分と貸し出す部分を変更する住宅のイメージ



改善イメージ2: 既存建物をリノベーションし、職を中心とした昼間人口を増加させる



就業人口の増加を図るため、低利用の建物をリノベーションし、スタートアップ企業や職住一体型施設に活用する。若きクリエイティブ人材が好む既存ストックを活用した建物改修を進め、隣接する屋外空間も活用して界隈性をつくる。



既存建物の改修のイメージ



界隈性を支える”屋外空間”のイメージ

土地利用の改善イメージ



改善イメージ3: ローカルコンテンツを生かした商業店舗を増やす



地域固有の自然環境や特産品などのローカルコンテンツを生かした地域独自の文化を発信する商業店舗を増やし、シビックプライドの醸成と地域経済の好循環を図る。



ローカルファーストな商業店舗のイメージ



川沿いのオープンな環境を生かしたイメージ



改善イメージ4: 学生などの若者がまちに関わるきっかけづくりを進め、将来の定住促進を図る



サテライトキャンパスやシェアハウス、たまり場となるシェアリビングなど、学生を中心とした若者の居場所を増やして、若いうちからまちに関わるきっかけをつくる。コミュニティ活動への参加や、SNSを活用した多彩なイベント開催など、昼夜問わずまちに滞在する場を広げてゆく。



サテライトキャンパスのイメージ



若者のたまり場のイメージ

ビジョンイメージ図

長期プランの各テーマを重ねた図案が以下のビジョンイメージ図です。

賑わい拠点、魅力的な屋外空間を水と緑でネットワーク化することで前橋プライドの礎をより強固にすると同時に、回遊性を高めてそれら屋外空間の活用を促進します。また、水と緑でつながった屋外空間は、歩行者、自転車、公共交通が使う新しい街路ネットワークによって結ばれており、便利で健康的なライフスタイルを促進します。

水辺、街路樹や公園などの緑の豊富な環境や、まちを歩いて楽しくなるような通り沿いの店舗の賑わい、様々なアクティビティにより人々の出会いと交流を生むオープンスペースなど、豊かな屋外空間を積極的に使い、育てることで、建物を含めたまちなか空間がより活発に使われて、クリエイティブな人材が集積・活躍する、多様なライフスタイルを受け入れるまちになることを目指します。

